

温暖化や薬剤抵抗性によって防除が困難となった害虫 に対するコンフューザーRを用いた防除

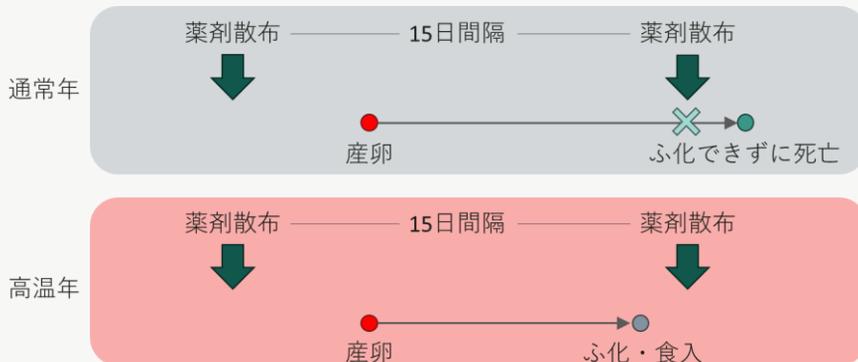
温暖化によって発生生態が変化したモモシクイガや薬剤抵抗性によって防除が困難になったリンゴコカクモンハマキに対する防除手段として、害虫の繁殖行動を攪乱し発生密度を低下させる交信攪乱剤コンフューザーRを令和6年青森県りんご病害虫防除暦に基準薬剤として位置づけました。

高温条件下におけるモモシクイガの防除失敗

果実に産み付けられた卵は、通常の気温下では15日間隔の薬剤散布で防除することができます。しかし、令和5年のような高温年には卵期間が短縮することにより、次回の薬剤散布前にふ化した幼虫が果実に食入するため、防除が失敗してしまいます。



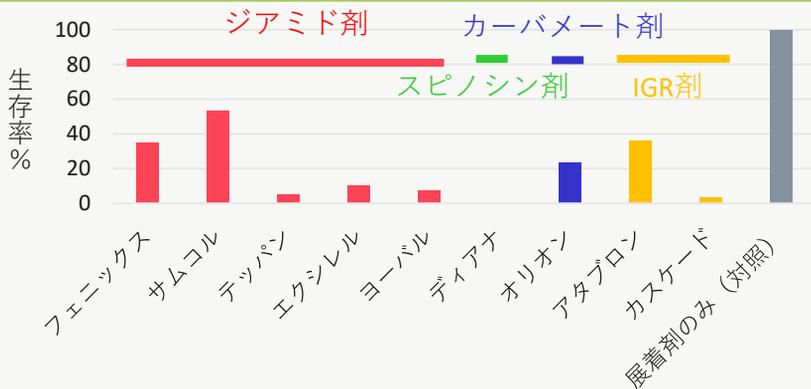
モモシクイガの卵



高温年における卵期間短縮が防除失敗につながることを示した模式図

リンゴコカクモンハマキの薬剤抵抗性

多発園から採集したリンゴコカクモンハマキ幼虫に対して、ジアミド剤、IGR剤などの主要防除剤の効果が低下していました。スピノシン剤は高い効果が認められましたが、薬剤抵抗性の発達を遅らせるためには異なる複数系統の殺虫剤によるローテーション散布が重要であるため、1系統の殺虫剤による防除は困難です。



多発園から採集したリンゴコカクモンハマキ幼虫の薬剤感受性

コンフューザーRの使用方法

- コンフューザーRは対象害虫（モモシクイガ、ナシヒメシクイ、リンゴコカクモンハマキ、リンゴモンハマキ、ミダレカクモンハマキ）成虫の交尾を連続的に阻害し、交尾率を低下させることによって次世代の発生密度を低下させます。
- 5月中旬に10a当たり100本の割合で取り付けます（樹の大きさにかかわらず、面積当たりの設置本数は同じです）。
- 設置本数が不足すると効果が不十分となるため、必ず決められた使用量を守って設置します。
- 近くに放任園などの発生源がある場合には、交尾済みの雌成虫が交信攪乱剤設置園に飛び込むことで被害が生じる恐れがあるため、樹を伐採するか、放任園も含めてコンフューザーRを設置します。



コンフューザーR